

今日のキーワード ADBのアジア経済見通し(アジア)

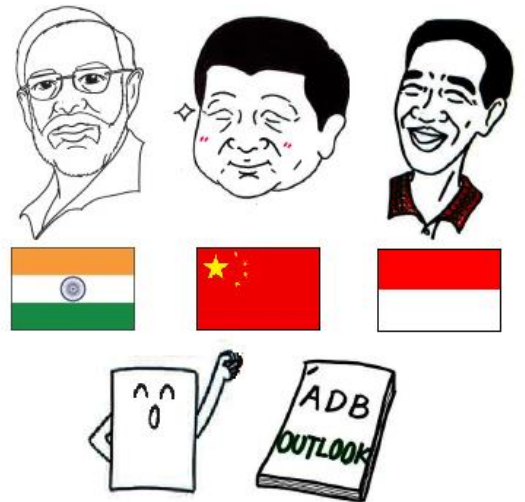
ADBとはAsian Development Bank の略で、アジア開発銀行のことです。アジア・太平洋地域を貧困から開放し、その生活向上に貢献することを目的として1966年に設立されました。設立当初の31カ国・地域の加盟から、現在は67カ国・地域(うち48カ国・地域がアジア・太平洋地域)に増えています。二大出資国は日本と米国で、アジア開発銀行の総裁は中尾武彦氏(元財務省財務官)です。

ポイント1 ADBが経済見通し「2014年改定版」を発表 アジア途上国の経済成長率見通しを据え置き

- ADBは9月25日、「アジア経済見通し」(日本などの域内先進国を除いたアジア・太平洋の45カ国・地域(以下、45カ国)を対象)の改訂見通しを発表しました。これによると、45カ国の実質GDP成長率は、2014年が前年比+6.2%、2015年が同+6.4%と、今年4月に発表された見通しがともに据え置かれました。引き続き来年に向けて緩やかな成長率の加速が見込まれています。10月7日に発表されたIMFの見通しでも、アジア新興国の経済成長率は、2015年に加速が見込まれています。

ポイント2 インドの経済成長率を上方修正 中国は据え置き、東南アジアは下方修正

- 各国・地域別では、インドの2015年の成長率見通しが前年比+6.3%(4月発表、同+6.0%)へ上方修正されました。ADBは、輸出の回復や新政権による経済構造改革の実施がインドの経済成長率を押し上げると見えています。
- 中国は、政策により投資の安定が図られているとされ、2014年の経済成長率は前年比+7.5%、2015年は同+7.4%に据え置かれました。東南アジアは、内需が想定よりも弱かったことから、2014年の成長率は前年比+4.6%(4月発表、同+5.0%)へ下方修正されました。2015年は、主要先進国の景気回復やタイが経済の停滞から抜け出すことを受け、成長率は同+5.3%への加速が予想されています。



今後の展開 アジア新興国の成長率は世界の主要地域の中では最も高くなる見通し

■物価上昇率は安定の見込み

物価上昇率は、食糧価格の上昇率が鈍化していることや石油価格が安定していることから、足元では落ち着いて推移しています。物価上昇率は、2015年に上昇するものの、緩やかにとどまる見通しです。各国の中央銀行は政策金利を概ね据え置いており、この傾向は当面続きそうです。

■世界の中で最も高い経済成長率へ

主要先進国の経済成長率は、欧州経済が弱含んでいることなどから2014年が同+1.5%、2015年が同+2.1%と低めの見通しです。アジア・太平洋地域の経済成長率は、中国、インド、インドネシアなどで経済構造改革が見込まれることを受け引き続き世界の主要地域の中で最も高くなる見通しです。

ここもチェック!

2014年10月8日【デイリー No.1,965】IMFの世界経済見通し(2014年10月)
2014年07月29日【キーワード No.1,380】「ADB」は堅調な経済見通しを維持(アジア)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。